

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立浦和商业高等学校)

目指す学校像	グローバルに展開する経済社会において、多様な分野で幅広く活躍する商業人材の育成
--------	---

重点目標	1 資格取得などの段階的な目標設定を通じて高度な知識・技能の習得を図るとともに、応用力・創造力を育む探究活動を通じてたくましく生き抜く力を養う。 2 地域の中核を担う商業高校として、教育活動の充実を図り、魅力ある商業教育を推進する 3 キャリア教育を推進し、社会人として必要な知識・技能や教養とマナーを身に付け、規範意識を持ち、生涯にわたり主体的に行動できる人材を育成する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校評議員	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					令和5年度評価(令和6年1月31日現在)		実施日 令和6年2月1日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【たくましく生き抜く力の養成】 ○ [現状] 授業互見とそのフィードバックが不足していること [課題] 学習評価の改善と授業改善が必要であること	○ 観点別学習状況の評価の着実・効果的な実施を図るとともに、授業互見の活性化により指導と評価の一体化を推進する。	○ 観点別学習状況の評価に関する評価・改善の実施(毎学期) ・授業互見とフィードバックによる授業改善の実施(毎学期)	○ 学習評価の改善について、6割以上の達成度や経時的上昇が見られるか(毎学期) ・教職員一人当たり、平均年2回以上の授業見学とフィードバックが実施できたか。	・学習評価の改善について、第2学期末において98.1%の達成度であったが、第1学期に比して0.9ポイント減少した。 ・授業見学2回以上は、第2学期末で67.9%が達成できた。1回が22.6%であるので、第3学期の見学増加に期待したい。昨年度を大きく上回る74枚のフィードバック用紙を回収できた。(2/20現在) 授業見学2回以上87.0%の達成度であった。	a	観点別学習状況の評価の完成年度に向けて、これまでの実施を踏まえた評価・改善が必要である。加えて、観点別学習状況の評価から評価・評定への換算について、チェック体制の構築が求められる。	・授業見学に対して積極的でない教員に対して、個別に働きかけをすべきである。
	(現状) 生徒のアウトプット活動(記述・議論・発表など)の活性化と、教科等横断的な外部連携授業の実施が一層必要であること [課題] 主体的・実践的な学びの充実に向け、生徒の相互通行のアウトプット活動の活性化と、外部連携の充実	● 生徒のアウトプット活動の活性化による主体的学びの充実と、外部連携活動による実践的な学びを推進する。	● 生徒のアウトプット活動の活性化(毎学期) ・アウトプット活動を効果的にする、相互通行のICT活用による実践的な学びの充実(毎学期) ・外部連携活動の実施(毎学期)	● アウトプット活動の充実について、6割以上の達成度や経時的上昇があるか(毎学期) ・相互通行のICT利用度が日常的になったか(毎学期) ・教職員一人当たり、平均年2回以上の外部連携活動が実施できたか。	・生徒のアウトプット活動について、第2学期末81.6%の生徒が「多い」と回答した。第1学期末に比して2.5ポイント上昇した。 ・相互通行のICT利用度について、第2学期末62.7%の生徒が「多い」と回答した。第1学期末に比して7.8ポイント上昇した。 ・外部連携活動について、第2学期末2回以上行ったが33.3%、1回行ったが31.5%であった。第3学期の実施増加に期待したい。(2/20現在) 外部連携2回以上は37.0%であった。	a	生徒のアウトプット活動の活性化のため、ICTを利用したアウトプット活動を進めたい。また、外部の教育資源と連携した教科等横断的・実践的な学びが緒に就いたので、今後は質量ともに向上を目指したい。	・アウトプットが苦手な生徒もいるので、多面的・総合的な評価をすべきである。 ・外部連携事業が、質量ともに向上・拡大することを期待している。
2	【魅力ある商業教育の推進】 ○ [現状] 学校の魅力について、効果的情報発信や相互通行の情報共有が求められていること [課題] 出前授業・動画公開・生徒・保護者を前面に出す学校説明会等の実施による、説明会等参加者数と希望・志願倍率の増加	○ 学校の魅力の発信や情報共有を推進するため、出前授業・動画公開・生徒や保護者を前面に出す学校説明会を実施する。	○ 生徒・保護者を前面に出す学校説明会の実施(実施毎) ・出前授業等や動画公開の複数回実施(実施毎) ・学校説明会等の参加組数増加 ・希望倍率・最終志願倍率の上昇	○ 生徒や保護者を前面に出す学校説明会等が実施できたか(実施毎) ・出前授業等や動画公開を複数回効果的に実施できたか(実施毎) ・学校説明会等の純参加600組以上が達成できたか。 ・希望倍率(10・12月)と最終志願倍率が前年度比上昇しているか。	・生徒を前面に出す学校説明会を実施することができた。参加者が本校の紹介動画を作成するなど、SNS上で称賛を得た。 ・出前授業を複数回実施するとともに、公開動画が高く評価されるなど認知度が上昇した。 ・学校説明会等の参加者は延べ1,000組超となった。純参加者も600組を超えた。 ・希望倍率が10月・12月ともに昨年度を上回った。(2/20現在) 最終志願倍率は商業科1.13倍、情報処理科1.24倍であった。	a	「学校ホームページ等でひきつけ、学校説明会等で中学生・保護者のハートをつかむ」戦略を一層推進したい。学校説明会において、生徒の出身(学習成果・部活動の成果発表や進路体験談など)を一層増やすとともに、保護者にも登場願いたい。	・中学生のときに参加した学校説明会が好印象だった。先生の説明もわかりやすかったし、先輩方の態度も親切で礼儀正しかった。引き続き、本校の強みや良さを伝える学校説明会にしてもらいたい。
	[現状] 目指す学校像などの学校が掲げる目標に準拠した、予算の執行と経費削減が求められていること [課題] 教育目標を実現する、県費・団体費予算の効果的・効率的な執行	● 教育目標を実現する、県費・団体費予算の効果的・効率的な執行と経費削減を図る。	● 目標の準拠した起案・決裁・執行(実施毎) ・経費の削減(毎学期)	● 目標に準拠した起案・決裁・執行が行われているか(実施毎) ・経費削減について、6割以上の達成度や経時的上昇があるか(毎学期)。	・目標に準拠した教育活動について、第2学期末において87.9%が「取り組んだ」と回答した。 ・経費削減について、第2学期末において90.9%が「取り組んだ」と回答した。	a	学校が掲げる目標や計画を一層体系化・系統化し、相乗効果を生む教育活動を一層推進したい。	・生徒が自分たちのことは自分たちで決める場面を増やしたいし、増やしてもらいたい。生徒指導部の先生と生徒会が話し合う場面を設けてもらったが、そのような機会を今後も増やしていきたい。 ・「経費削減」の表現は、「経費の有効活用」とした方が前向きに受けとめられるのではないかな。
3	【主体的に行動できる人材の育成】 ○ [現状] 生徒のキャリア形成のため、キャリア・パスポートの一層の有効活用が求められていること [課題] キャリア・パスポートの一層の有効活用	○ キャリアパスポート(キャリアパス)の一層の有効活用により、生徒のキャリア形成を図る。	○ キャリア・パスポートの有効活用(毎学期)	○ キャリア・パスポートの有効活用について、6割以上の達成度や経時的上昇が見られるか(毎学期)。	・キャリア・パスポートの有効活用について、第2学期末42.6%が「取り組んだ」と回答した。第1学期に比して3.7ポイント上昇した。	b	次年度より本格的に始まる探究活動に向けて、キャリアパスに探究活動に係る記載ページを設けることで、自己の在り方生き方(キャリア教育)と連携・融合した探究活動を推進したい。	・キャリアパスや支援ツールについて、活用する主体である生徒に働きかけをしたり、積極活用のアイデアを聴いたりしてはどうか。 ・これまで以上に、1年次からのキャリア教育を推進してもらいたい。
	[現状] 効果的なキャリア教育の推進のため、支援ツール(生徒手帳・学習の手引き・スタサポ等)の連携が求められていること [課題] キャリアパスを中心とした、支援ツールの効果的な連携	● キャリアパスを中心とした支援ツールの効果的な連携により、キャリア教育を効果的に推進する。	● キャリアパスを中心とした支援ツールの効果的な連携(毎学期)	● キャリアパスを中心とした支援ツールの効果的な連携について、6割以上の達成度や経時的上昇が見られるか(毎学期)。	・支援ツールの効果的な連携について、第2学期末において57.4%が「取り組んだ」と回答した。第1学期に比して11.1ポイント減少した。今後、キャリア・パスポートやその他の支援ツールの評価・改善が必要である。	b	支援ツールとキャリアパスが連携した仕組みを構築する。例えば、高校生のための学びの基礎診断の結果をキャリアパスに記入したり、生徒手帳にメモした内容をキャリアパスに整理して書き写したり、学習の手引きや進路の手引の記載事項に関する記述をキャリアパスに設けたりするなどである。	・支援ツールの活用は生徒のキャリア形成に有効であるので、積極的な活用がなされるよう工夫してもらいたい。